

訃報

謹んでお悔やみ申し上げますとともに心からご冥福をお祈りいたします。



伊藤義郎元 RI 理事 (PG)
2023 年 12 月 5 日ご逝去
(満 96 歳)

【ロータリー歴】

1957 年 7 月	札幌ロータリークラブ入会
1968 年 7 月	札幌ロータリークラブ会長
1977 ～ 78 年度	国際ロータリー第 251 地区 (当時) ガバナー
1978 ～ 79 年度	世界親睦活動委員
1981 ～ 82 年度	アジア地域諮問委員会副委員長、 1983 年国際大会 (トロント) 委員
1982 ～ 83 年度	1983 年国際大会 (トロント) 委員
1985 ～ 86 年度	ガバナー会議顧問
1986 ～ 88 年度	国際ロータリー理事
1987 ～ 88 年度	ガバナー会議顧問
1988 ～ 89 年度	財務委員会委員
1989 ～ 91 年度	財務委員会委員、ロータリー財団管理委員
1991 ～ 92 年度	ロータリー財団管理委員
1996 ～ 97 年度	アジア拡大委員会委員、 1998 年国際大会 (インディアナポリス) 委員
1998 ～ 99 年度	アジア問題委員会副委員長
1999 ～ 00 年度	2001 ～ 02 年度会長指名委員
2002 ～ 04 年度	長期計画委員会委員
2009 ～ 11 年度	一般財団法人ロータリー日本財団評議員
2011 ～ 21 年度	公益財団法人ロータリー日本財団評議員

【表彰】

ロータリー財団	メジャードナー	ベネファクター
米山記念奨学会	米山功労者マルチプル	

伊藤義郎元 RI 理事 (PG) を偲んで



国際ロータリー第2510地区2018－19年度ガバナー
小山 司 (札幌 RC)

札幌 RC 会員で、1977年に国際ロータリー第251地区（当時）ガバナー、1986－88年度に RI 理事をお務めになった伊藤義郎会員が2023年12月5日に天寿を全うされました。96歳でした。その行動力とリーダーシップにより北海道の経済、教育、文化、スポーツ、保健・医療、放送など幅広い分野において、北海道の発展と国際化に生涯を捧げていただきました。ご生前にいただいたこれらの多大なご尽力とご功績に深く感謝申し上げますとともに、謹んで哀悼の意を表します。伊藤会員は1926年12月14日に父、伊藤組土建社長伊藤豊次様、母、辰様の長男として、札幌市にお生まれになりました。伊藤豊次様は札幌 RC のチャーターメンバーのお一人でもありました。長じて旧制北海道庁立札幌第一中学校（北海道札幌南高等学校の前身）を経て、1950年に早稲田大学政経学部を卒業。卒業と同時に伊藤土建株式会社取締役役に就任し、留学のため渡米している。周囲の反対を説得したうえでのご自身の強いご意思であったと伺っています。

1952年にカリフォルニア大学大学院を修了し、さらに1953年にはコロンビア大学大学院を修了し、帰国後、1956年に30歳で伊藤土建株式会社取締役社長に就任している。その後の実業界での活躍はもちろんのこと、枚挙にいとまがないほどの公職をこなし、2002年、会長職となって後進に道を譲られた後も精力的に職責を果たしてこられました。

これらのご功績が藍綬褒章（昭和58年11月）、米海軍省表彰 民間人勲功章（平成10年6月）、米海軍長官表彰 公共奉仕特別勲功章（平成21年7月）、ノルウエースキー協会 ヤング・オラフトロフィー（平成22年3月）、北海道功労賞特別賞（平成28年10月）、旭日重光章（平成29年11月）など多くの受章によって顕彰されたことは御同慶の至りであります。

私は伊藤会員と同じ札幌 RC の会員であったこともあり、親しくご厚誼とご指導をいただきました。北海道発展への限りない情熱と誠実なお人柄、そして後輩を育てる教育的まなざしと人に対する優しさが、今もはっきり思い出され、伊藤会員が帰らぬ人となられたことはとても信じることができません。改めて言い知れぬ寂しさと悲しみがこみあげてきます。私が2018－19年 RI 第2510地区ガバナーを命ぜられた際には、正直言って RI 役員として地区のガバナンスを実行する役割は、私自身にとって荷の重すぎることでありました。しかし、伊藤会員の懇切丁寧なご指導と必要に応じた適切なお助言をいただくうちに、いつの間にかロータリー活動に関する理解が深まり、ガバナー年度の構想づくりに集中するまでになっていました。ガバナー年度を通して伊藤会員の存在そのものが心の大きな支えとなりました。感謝の気持ちでいっぱいです。

冒頭に述べましたように、伊藤会員は1986-88年度RI理事をお務めになりました。我が地区だけでなく日本のロータリアンにとって象徴的な存在であり、リーダーとして日本のロータリー活動に立派な足跡を残されました。それらが伊藤会員の豊かなお人柄や広い見識によって支えられ、生み出されたことを、喜びと感謝をこめて、とくに申し添えたいと思います。伊藤会員のこれまでのロータリアンとしての歩みは北海道のため、さらには我が国のロータリー活動の健全な発展にとって誠に幸いな道程でありました。それは私たち関係者一同の喜びであり、ひそかな誇りであったと言えます。

何かの折に、「北海道に生まれて生を受けたので、北海道を少しでも良くするため、まだやらなければならないことがたくさんあると思っている。」としみじみと話しておられたことが思い出されます。私なりに地域に根差したロータリー奉仕活動の重要性を指摘されたものと理解しています。

伊藤会員の北海道の発展へのあくなき理想を燃やし続けられた生涯を思うとき、かけがえのないリーダーを失ったという悲しみとともに、心に大きな空洞が生まれたような寂寞の思いがこみ上げてきます。ご遺族の心中を思うとき、今はただ故人の安らかなるご冥福をお祈り申し上げる次第です。

伊藤義郎元 RI 理事 (PG) を偲んで

伊藤義郎元 RI 理事の訃報に接し、残念な気持ちで一杯です。私たち札幌ロータリークラブの会員にとりまして常に心の支えであり、迷ったときには「伊藤さんであればどのようにお考えになるだろう」と問うのが習慣になっている存在でした。精神的な支柱を失ってしまい、深い悲しみに包まれています。

伊藤さんがお亡くなりになった、というニュースを受けたのは年末家族親睦会を5日後に控えた日の夕方でした。私自身、悩み、迷いました。親睦会を取りやめて会員一同喪に服するべきではないか、とも考えました。しかしながらロータリーをこよなく愛して下さった伊藤さんには私たちが家族会を楽しみ、親睦を深めている様子をお見せすることが一番の供養になる、と信じ、追悼例会で会員のご家族やゲストの方と一緒に黙とうを行い、それに引き続いて例年通りに親睦会を開催することに決めました。親睦家族会を担当する親睦委員会にはいつもよりも賑やかな、楽しい会にするように話し、またオープニングステージをお任せした札幌国際情報高校の吹奏楽部の生徒さんたちには私が直接お会いして悲しみに沈んだ心を明るくしてくれるパフォーマンスをしてくださるようお願いしました。若い、はつらつとした高校生から出席者全員がパワーをもらい、明るくエネルギッシュな雰囲気の中で私たちが家族会を存分に楽しんでいるところを伊藤さんのご遺影にお見せすることが出来たと思います。

私が伊藤さんに最後にお目にかかったのは昨年の札幌 RC 創立 90 周年の記念例会の時でした。スピーチをされる時に「お座りになってお話してください」という私たちの申し出に対して「私は立って話します」とおっしゃって、すっとお立ちになってテーブルに手をついて体を支えながらお話しになった、凛としたお姿が目には焼き付いています。記念例会後の懇親会では私は光栄なことに伊藤さんのお隣の席に座ることが出来ました。シャンパングラスで乾杯をしていただいたことが大切な思い出になっています。

RI 理事をお勤めになった後、RI 会長への就任を打診されたときに「RI 会長になると家内を日本においてアメリカに赴任しなければならなくなるのが淋しい」とおっしゃって就任を受諾しなかった、というエピソードが残っています。伊藤さんはご家族をこよなく愛する優しさをお持ちになった方でした。

私のところに海外のロータリアンからたくさんのお悔やみのメールが届いています。本当に偉大な方を亡くしてしまいました。残されたメンバーで伊藤さんのご遺志を引き継ぎ、クラブの発展に尽力していきたいと思います。

2023 年 12 月

札幌ロータリークラブ会長 福山眞司